

みんなで生き方を考えよう！

文責：道徳主任

道徳教育だより 9月号

上赤 義人

田原中生徒の道徳意識調査（その1）

◎「明日、早朝からリレーの練習があります。ところが、あなたはテレビゲームに熱中しています。気づくと、もう午後11時、あなたはすぐやめて寝ますか」
やめる 84.8% やめない 15.2%

◎「自分の個性を発揮するために、あなたは容姿・服装・言葉づかいよりも自分の行動や考え方をたいせつにしますか」
大切にす 81.3% 大切にしない 18.7%

自分自身に関わる道徳的意識から、多くの生徒が望ましい生活習慣を身につけ、個性について理解した上で、それを伸ばそうとしていることがうかがえます。道徳教育において、自分自身に関する道徳的価値をもつことは、とても大切であり、それは子どもたち一人ひとりの生き方の基盤となります。今後も、学校と家庭とが、ともに子どもたちの心を育てていくようにしていきましょう。

二学期が始まり、毎日暑い中、体育大会の練習が行われています。行進の足を揃え、気持ちを合わせ、声を出し、生徒一人ひとりが、9月18日の本番に向けて必死にがんばっています。この練習期間中に、東日本大震災から半年をむかえる日、9月11日がやってきました。当たり前の生活、まちながりの日を境に大きく変わってしまいました。当たり前が、当たり前ではなくなったようです。

だからこそ、当たり前に体育大会をむかえることのできる私たちは、その取り組みをより大切にすべきなのかもしれません。生徒一人ひとりが、心の底から、「良かった」といえる体育大会にするためにも…。

いまここに、体育大会を行えることに感謝しながら、今私たちにできること、それは…。

がんばれ！東北
がんばれ！日本
がんばれ！田原中
がんばれ！〇〇君、〇〇さん

アンカーでないためなんだ

体育大会が近づくと、いつも思い出すことがあります。それは、何年前かテレビで見た小学校の運動会の一場面です。

そのクラスには、運動の苦手なA君という男の子がいました。短距離走はいつも最下位のA君の夢、それは一度でいいからあの白いテープを切ってみたいということでした。A君の願いを知ったクラスのみんなは「今度の運動会で、A君にテープを切らせよう。」を言葉に、話し合いを始めたのです。どうすればA君の夢を実現させられるのか。そこで出た答えは、A君をクラスの全員リレーのアンカーとして出場させようということでした。A君の走力を知っている担任の先生は、A君のことを思い、せめて第一走者が第三走者として走らせてはどうか、と提案しました。みんなは考えました。

「やっぱりアンカーだ。アンカーじゃない。」みんなの決心は変わりませんでした。A君の夢は、白いテープを切ることなんだ。みんなの心は、その思いでいっぱいだったのです。とはいうものの、A君をアンカーとして走らせるのは、大きなかけでした。みんなはまず、クラス全員のタイムを調べ、早い順にリレーメンバーの3人を選びました。そして、第一走者で何メートルの差をつけ、第二、第三走者では、…と細かにレース運びを組み立てたのです。アンカーのA君にバトンが渡る時には、何メートルの差をつけておけば大丈夫。そこまで、みんなで考え抜いたのです。翌日から早速、練習。初めは集まらなかった仲間も、「なんとかしよう。」という呼びかけに、全員が集まるようになりました。もちろん、A君は、その中で誰よりもひたむきに走り続けました。

運動会の当日。クラス全員リレー。ピストルが鳴る。第一走者が走る。クラスの全員が応援します。予定通りの展開。バトンがA君に渡ります。走る、走る。後から他のクラスのアンカーがぐんぐん迫っています。A君は必死に腕を振ります。そして、夢にまでみた白いテープを、A君は自分の胸で切ったのです。「アンカーでないためなんだ。」と言い張った子どもたちは、夢をかなえることの厳しさと、仲間を思う優しさを学びました。一人ひとりのささやかな願いに、クラス全員が燃え、さまざまなかたちを学び合う、そんな体育大会になるといいな、と思います。

